



にじのはし幼稚園 園だより



令和 4 年 3 月 号
港区立にじのはし幼稚園
園長 石川典子

今年度の本園は幼児期の教育を通して、幼児の主体性を大切に育み、「気付き・考え・行動する」体験を通して、『自立心』や『思考力の芽生え』を培ってきました。幼児の心身や思考力の成長は目覚ましく、3学期末を迎え、幼児自身が自分の成長に気付き、喜びや自信に溢れ、進級・進学への期待に胸を膨らませていることをうれしく思います。

ユニセフ報告書「レポートカード16」発表の先進国38か国の『子どもの幸福度ランキング』では、日本の「子どもの幸福度」の総合順位は20位です。この総合順位は「精神的幸福度（生活満足度が高い子どもの割合、自殺率）」が37位、「身体的健康（子どもの死亡率、肥満など）」が1位、「スキル（読解力・数学分野の学力、社会的スキル）」が27位からです。日本の子どもは、「幸福度」が低いという残念な結果となりました。

ある大学の研究では、「幸福度」につながる因子を4つ定義しています。

- ① **自己実現と成長**「やってみよう」…自尊心や自己有能感、自分の能力に対する肯定的な評価、人生の意義や目的の理解を示す。
- ② **つながりと感謝**「ありがとう」……他者に対する感謝や人の喜びを自分の喜びのように感じる。
- ③ **独立とマイペース**「あなたらしく」…自己を他者と比較しない傾向。
- ④ **前向きと楽観**「なんとかなる」……楽観性や制約の感覚のなさ。

この4つの因子は、本園が、幼児の主体的な遊びの中で、直接体験によって育てている非認知能力につながります。

熱戦が繰り広げられた北京オリンピックでは、多くの選手が夢や希望をもって競技に挑み、『楽しんで』姿や『ポジティブ』な言葉が、見ている者に元気や勇気を与えてくれました。選手の言葉に注目すると、「笑顔」、「わくわく」、「楽しい」、「ポジティブ」、「競技・チームが好き」、「感動」、「明るいやり取り」、「結果だけではなくて、伝わるものがある」、「幸せな時間だった」、「感謝したい」、「共に進もう自分を信じて」、「人は効率や成果だけで生きているのではない」など、『幸福度につながる因子』と重なります。

次代を担う子どもたちの「ウェルビーイング（心身の健康や幸福）」を支えていくために、幼児期の教育に関わる本園のすべきことは、幼児の主体性や個性を尊重し、子ども一人ひとりが遊びや生活を十分に楽しめる保育を行うこと。幼児の自己肯定感を育み、自分を「かけがえのない存在、価値ある存在」として自分自身で認めることができるようにすること。全ては、日々の質の高い教育の実践にかかっています。年度末に改めて気を引き締めます。

保護者・地域の皆様には、今年度1年間、本園の教育にご理解・ご協力いただいたことに深く感謝申し上げます。

